



SESERAGI—MISHIMA
ROTARY CLUB
WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2016～2017年度 RI会長 ジョンF. ジャーム
RIテーマ 人類に奉仕するロータリー

クラブテーマ「出会いに感謝&ありがとう」会長 中山和雄
副会長 山口辰哉 幹事 米山晴敏

第1326回例会
2017.6.16(金)晴

司会:田中錦城君 指揮:山口辰哉君
ロータリーソング「日も風も星も」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 ブケ東海三島
TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 中山和雄君



今晚は、今日は亥角ガバナー補佐の公式訪問です、ここまで来ると私もそうですが亥角ガバナー補佐も長いようで短かった1年だったと思っている事と思います。後程第2分区の今年度の動き等につき、お話があります。

岡さんは昨日入院して今日、もう手術も無事に終わっていると

思います。私も去年の6月14日に入院し17日に胸を開き心臓の動脈弁の形成手術を受けその月の25日には退院し27日から仕事に復帰、3月後にはゴルフも復帰できました。

岡さんも発見が早かったので脳血管の破裂を免れ、私も早く手術をしたので弁を取り換えなくて済み、とにかく皆さんも早く異常を発見し早く処置をすれば、今の医学からすれば完治も早く健康で楽しい人生を送れるのではないのでしょうか。私ももう一つ持病を持ってまして、痰に15年ぐらい前から悩まされ夜も睡眠を十分に取れなくいろいろな病院で検査してもらいましたがいまだにこれと言った原因がわからず来月の12日から一週間金沢の上尾病院で検査入院をします。この病院は前にテレビ番組の家庭の医学で私と同じような症状を取り上げたものを、友達や事務員が見ていて一度検査してくればと勧められた病院です。原因がはっきりし早くスッキリした呼吸をしたいものです。

今日の会長挨拶は体の異常を早く見つけ、早く治療を受け健康な体で、人生を歩きましょうでした。ありがとうございました。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

亥角裕巳君(第2分区ガバナー補佐)
平出利之君(ガバナー補佐事務局)



おめでとう

会員誕生日 6月21日 山田定男君
入会記念日 6月22日 太田政人君
6月22日 中村 徹君

今日の料理



出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	26/36	72.22%	32/36	88.89%
今回	22/34	64.71%	会員総数	39名

欠席者 あなたが見えなくて残念でした。

内田君、遠藤君、勝又君、小林君、篠木君、杉山(順)君、鈴木(政)君、中本君、服部君、矢岸君、山口(雅)君、山本君
(*出席免除会員の欠席者 大房君、片野君、澤田君、渡邊君)

スマイルボックス

兼子悦三君：中山年度一年間ご苦勞様でした。今年は会場変更等で大変でしたが、立派にクラブ運営をして下さりありがとうございました。

小島 真君：毎日幸せです！感謝！！

中山和雄君：今日を含めあと三回の例会となりました。一年間ありがとうございました。会長職が終わった後、役職としては静岡県土地家屋調査士会三島支部の理事(総務部長)だけで少しのんびりしようと思っていた矢先でしたが、先日の静岡県公共嘱託登記土地家屋調査士協会の東部ブロック協議会で本会の監事の推薦を受け9月の本会総会で指名を受ければ2021年までの4年間本会の監事職につくことになります。まだまだ人の為、会の為に尽くせという機会を与えて頂く事に感謝したいと思います。ありがとうございました。

石井司人君：今年も無事に田植えが終わりました。後は今年も豊作を祈るだけです。

藤川智徳君：今日は岡さんの手術の日です。ご無事をお祈り致します。P. S. 禁煙7日目です。

石井邦夫君：会長、幹事様、あと2回ですね。がんばって下さい。

石井和郎君：休みが続きました。スマイルします。

土屋 巧君：同級生の岡ちゃんが本日手術を受けているはず。問題無いとは思いますがちょっと心配ではありません。無事帰還することをお祈り申し上げます。たぶん帰ってきたらまたうるさいと思いますが・・・。

原 兄多君：来週お休みします。すいません。

山田定男君：今日は海に出掛けます。



ROTARY NEWS

6月12日にロータリー国際大会で講演したビル・ゲイツ氏は、ポリオのない世界に向けた大きな進歩と今後の課題を強調しました。

米国ジョージア州アトランタのジョージア・ワールド・コングレスセンターにて、ゲイツ氏は、LEDブレスレットを着用した22,000人以上の観衆に向け、ポリオ症例をゼロにするための努力を続けなければならないと訴えました。ビル&メリンダ・ゲイツ財団の共同会長であるゲイツ氏は、世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)を「世界でこれまでに行われた最も野心的な公衆衛生の取り組み」とし、これまでの歴史的マイルストーンを振り返りました。各地域のポリオフリー宣言を含め、マイルストーンごとに、会場の各セクションでLEDブレスレットが点灯。ブレスレットを着用した出席者もプレゼンテーションの一部となりました。全世界でこの麻痺疾患を撲滅するため、革新的かつ先見的な役割を果たしてきたロータリーに感謝する、とゲイツ氏。「ロータリーは、揺るぎない目標意識そして全身全霊で力を注げば何でもやり遂げられるという信念でポリオ撲滅の基盤を築いてきました」

GPEIの取り組みが始まって以来、ポリオ症例は年に約35万件から99.9%減と驚異的に減少。いまだ野生型ポリオウイルスが常在するのは、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの3カ国のみです。これまでの撲滅活動がなければポリオを患ったであろう1600万人以上が、今日、麻痺の影響を受けずに歩くことができると指摘。「これほどの活動努力は驚異的」とゲイツ氏は付け加えました。

ゲイツ氏は続けます。「ポリオ撲滅は私が最も多くの時間を費やしていることであり、毎日、新しい発症例があるかどうかをメールでチェックしています。私は、この大きな活動の一部であることを誇りに、そして光栄に思います」ポリオ撲滅を過去10年間の最優先課題としてきたと話すゲイツ氏は、現在もポリオが発症している紛争地域において未だに課題が残っていることを認識しています。「最も困難なことの一つは、一人残らずすべての子どもたちにポリオワクチンを届けること。しかし、紛争地域ではあらゆる関係者と信頼を築くことが難しく、予防接種が容易には進みません」しかし、依然として紛争問題を抱えるアフガニスタンにはほとんどウイルスがないことを指摘。「ポリオを撲滅する唯一の方法は、政治的、宗教的、社会的な分裂を超えて協力すること。ポリオ撲滅活動の支援者がその説得を続けてきたからこそ、今、成果が表れています」発症数がかつてないほど少ない一方で、ウイルスのサーベイランス(監視)と検出が困難になっています。「ウイルスを完全に食い止めるには、どこに隠れているのかを知る必要がある」とゲイツ氏。「新しいアイデアを生み出し、教訓を学び、新しい状況に適応して行ってこそ、ポリオをゼロにできると確信しています」全世界で146の研究所のネットワークが、毎年、約20万件のポリオウイルス検便検査を行っており、その99.9%が陰性です。陽性結果はほんの一部ですが、保健当局が予防接種活動に集中してウイルスの感染を防ぐのに役立っています。さらに、ポリオが今だ発症している国では、ウイルスが下水中で短時間生き残ることができるため、125の環境検出サイトを検査しています。